学校名　［仙台市立田子中学校　］　　　　**氏名**　［　白石　和也　　　］

［　中　］**学校**　［１・２・３　］　**年版**　**単元名**　［一人一人が災害に備える］　**P**３８～３９

教科･領域名　［総合的な学習の時間］［　**時間**　50　　**分**　］

主な学習活動　　（実際に行った活動）	指導の実際

【はじめに】本校では 11 月の「田子地区地域防災訓練(市民ｾﾝﾀｰ・地区・小学校・中学校合同)」に向けて「防災強化期間」を設けており、防災講演会等の様々な活動に取り組んでいる。その中の「防災訓練地区打合会①」で本資料を活用した。授業は町内会ごとに学年の枠を外して行い、そこに町内会の方も一緒に参観・活動して授業を行った。今年度は特に「自助」をテーマに展開をしている。

主な学習活動	指導の実際
【防災強化期間のねらい】 大震災の再来に備え、「田子地区地域防災訓練」に向けて、地域社会との連携を強化し、災害発生時の地域の防災体制の整備と防災意識の向上を図る。 **【事前活動】** ・地区担当の複数教師の役割分担を決める。(チーフ、全体司会、授業担当、地域担当) ・生徒は帰りの会終了後、地区教室に移動。 ・地区担当教師は今日の授業の流れについて地区の方と打合せ。 **【学習活動】** **(導入)…全体司会教師** ・教師、地区の方の自己紹介→生徒の自己紹介。 ・生徒の学年ごとのリーダーの決定。 ・今日の授業内容の説明。 **(展開)…授業担当教師** 1,災害直後の生活を振り返る。 ・自衛隊と駐屯地にいた。学校にいた。等 2,本時の学習活動のねらい	・持ち物…□筆記用具□防災ファイル □学習プリント□新防災副読本 ・地域の人に生徒の顔を覚えてもらう事も目的の 1 つなので大きな声で挨拶をさせる。 ・座席は学年ごととし、学年ごとの話し合いも行う。また、地区ごとの集まりなので、内容によっては学年の枠を外して討議することも可能とした。

～今日の授業のねらい～

自助、共助、公助のうちの自助について考え、中学生ができることに気付こう

主な学習活動	指導の実際
3,防災・減災という言葉の確認と説明 4,自宅内避難について考える。 5,循環備蓄について知る。 ・震災後の食生活を振り返る。 ・自分の家の循環備蓄について考える。 6,中学生のできることについて。	・授業担当教師以外の教師は机間巡視を行い、生徒の学習プリントの記入状況や個人的にアドバイスを行う。 ・地区ごとに授業の展開部分や方法は違うが、副読本を読み進めながら授業を進め

・中学生にできることを以前の防災訓練の活動から考える。

（まとめ）…全体司会教師

・地域の方から今日の授業について、また生徒の反応等について感想を述べてもらう。

・授業担当教師による振り返りと総括

【連絡】

・次回の「防災訓練地区打合会②」→「田子地区地域防災訓練」→「緊急避難訓練」等の一連の防災強化期間について説明。

・生徒リーダーによる号令。

・地区の方と次回の打合会②の内容(地域防災訓練の内容の説明、地区ごとの生徒の役割の確認、集合時間や持ち物等)説明が中心であることを説明する。

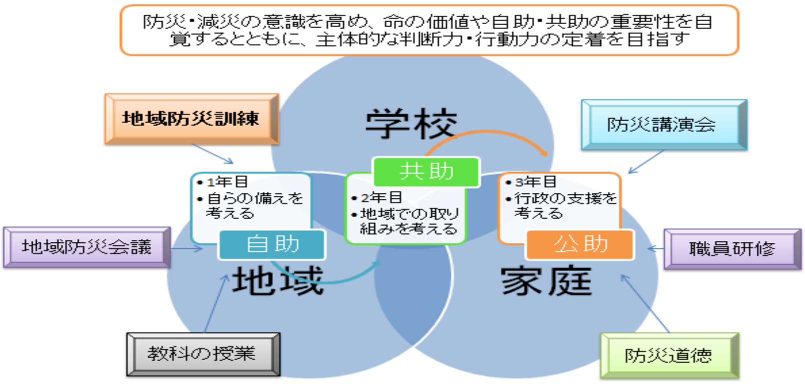
る教師が多かった。

・中学生にできることは地区の方が持ち帰り、次回の防災訓練に生かすようにする。このことで生徒にとって実際に活動する内容を考えることとなる。

【まとめ】防災強化期間は 1、防災講演会(「非常時に大切なこと」予備自衛官　阿部美奈子氏) 2、防災訓練地区打合会①　3、防災備品確認研修会　4、防災訓練地区打合会②　5、地域防災訓練　6、緊急地震速報訓練　という 6 の活動がある。また、生徒の活動についても 1 年目に「自助」を考え、2 年目に「共助」、3 年目に「公助」について学び、中学校の 3 年間を通してすべての生徒に防災について考える機会を設けることとした。

地域の方からは「生徒達の顔が分かり、有意義な活動である。」「中学生の挨拶がすばらしい。」等の感想が述べられた。

この活動のキーポイントは一つ目に防災副読本の活用があげられる。副読本も「自助」「共助」「公助(メカニズム等も含む)」に分けられて構成されているので 3 年間を通して活用できることである。また、「市民センター」が仲介役として「学校」と「地区」を結びつけていることも大きなポイントである。学校だけではできないことを「市民センター」がやってくれたことに感謝したい。今後は一斉下校訓練などの活動を組み合わせてより有事に備えた活動をしていきたい。



仙台市立田子中学校　防災強化期間